

過去と現在の MARIAGE

しまなみの複合施設



01. CONCEPT

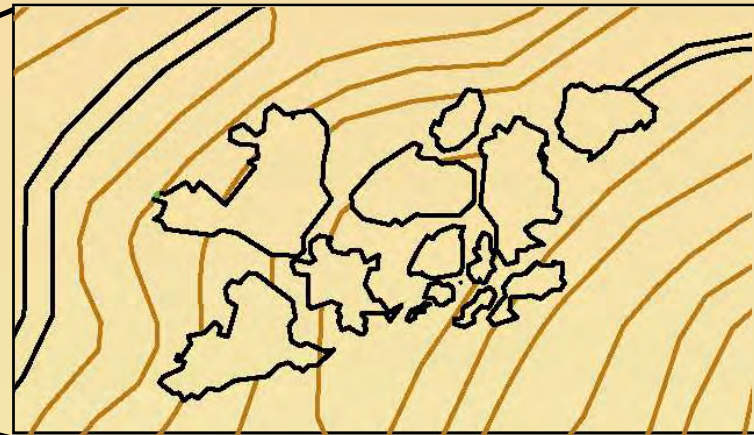
「Mariage（マリアージュ）」とは、本来別々だった存在があたかも一体となるように調和し、新たな価値を生み出すことを意味する。本計画では、地域の風土、歴史、文化などを「過去」とし、今に行う我々の設計・構想段階を「現在」とする。その上で、過去と現在のマリアージュによって新たな建築の創出を目指した。

具体的には、しまなみ海道と直接つながっていないため来訪者が少ない岩城島の積善山を対象地とし、そこにある積善山展望台へマリアージュを操作原理とした観光価値の増進、経済効果による地域の持続可能性を提案する。

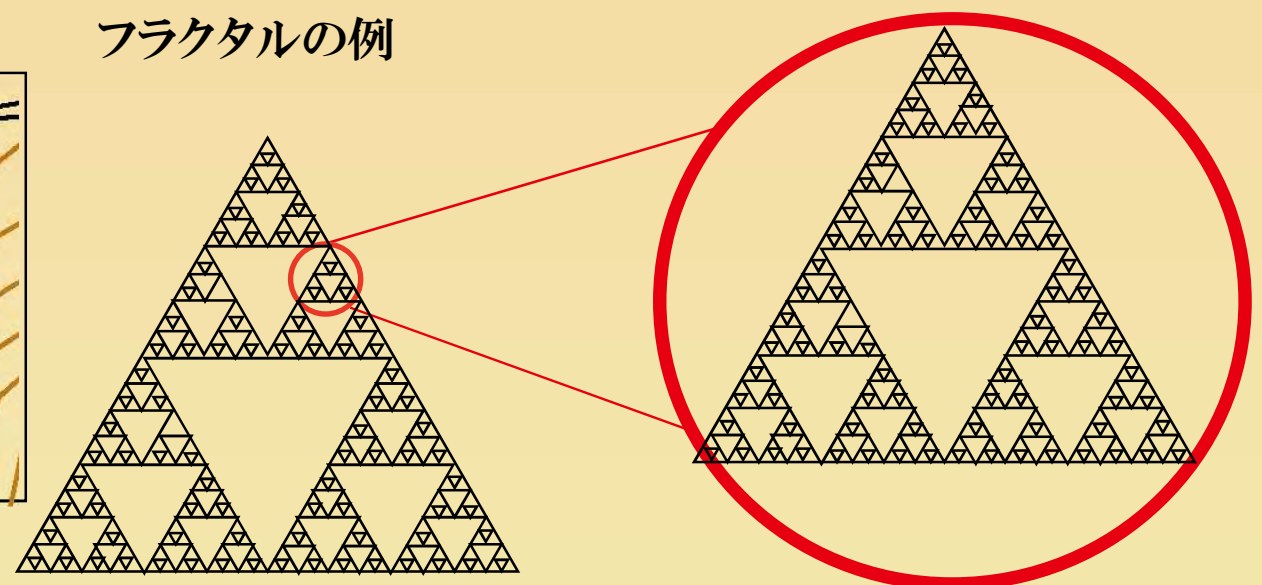
また、積善山の斜面や桜といった既存の自然環境を最大限に活かすことで、柔軟性と持続性を両立し、来訪者がしまなみ海道の島々の自然や文化を体感できる空間を形成することで、これまで以上に人を惹きつける魅力ある観光拠点へと再開発することを狙いとしている。

02. 舞台の決定

四則演算という二次元的な話題と建築という三次元的な話題を組み合わせる中で、三次元的な建築を幾何学という二次元に置き換えた。そして、幾何学的なものが自然に現れる場合について調査していくと、「フラクタル」という現象がリアス海岸や、植物の根に現れていることが散見された。また、フラクタル（自己相似性）は四則演算の要素とも通ずるものがあるため、今回私たちは、フラクタルを用いて、しまなみ海道の島々で設計することとした。

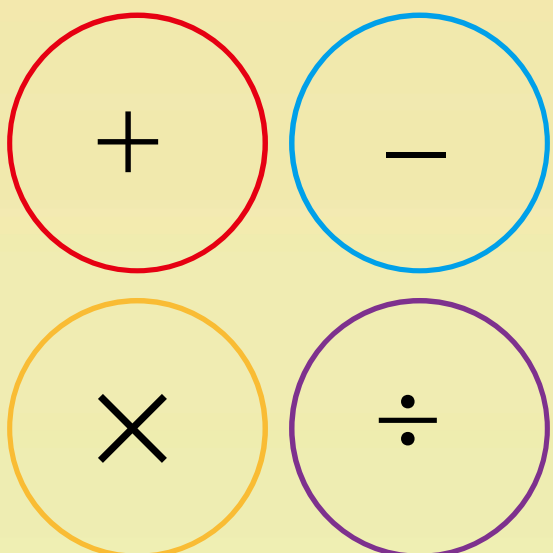


フラクタルの例

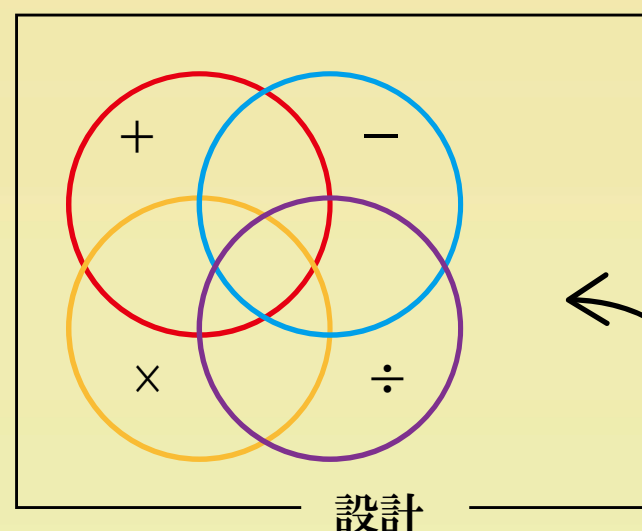


03. Concept への経緯（四則演算の捉え方）

初期段階



熟考の結果、



設計

MARIAGE

題材とした岩城島にすでに決定されている島のフラクタル型の建築群に対して

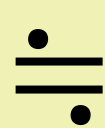
- ・島の文化の反映
- ・自然（名物）の保持

≫ “過去” と “現在”

過去と現在の Mariage

四則演算の全ての要素を複合的に MARIAGE と捉えることで柔軟に四則演算の活用の幅を広げることが可能となる

四則演算を表現する設計



過去と現代の Mariage

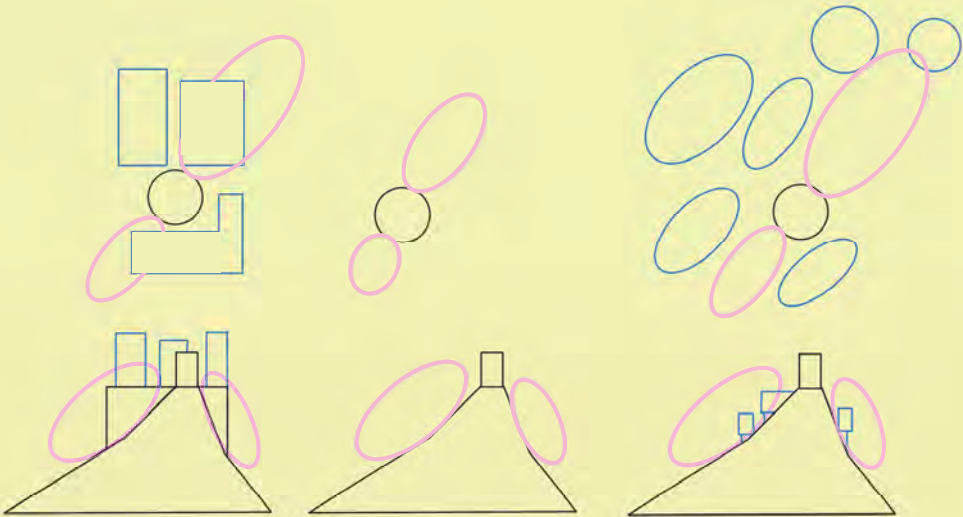
Mariage (≡ 四則演算) を表現する設計

最終的に四則演算に帰着するのでは？

04. 設計計画

1、 積善山の MARIAGE

今までの再開発では、元ある建築物を取り壊し、一から建築的な取り組みをするものや、周辺を整地し、規則的に計画を進める事例が主流であった。今回の再開発では、山頂に位置する積善山展望台を中心に据え、地形に沿った新たな建築物を増やすことで、過去の風土と新しく設計される現在の建築物とを Mariage させて設計した。



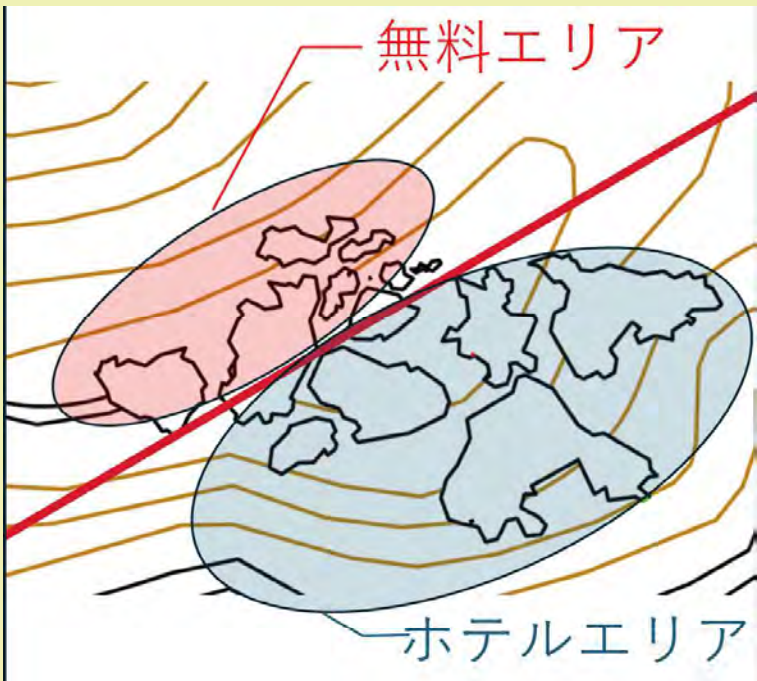
2、 自然（桜）との MARIAGE

山の高低差を建築に利用することで、自然景観の極端な変化を抑え、自然とも馴染むよう設計した。景観を保護することで、新たな建築と絶景として親しまれてきた岩城島の三千本桜とを Mariage させ、相乗的に魅力が向上するように設計した。



3、 尾根との MARIAGE

ゾーニングにおいて、元からある山の尾根という地形を施設用途の配置の決定に落とし込み、施設と地形を Mariage させることで無料エリアとホテルエリアの緩やかな分割が実現された。



05. CONCLUSION

本計画では、昔からあるものの立地条件などにより人が訪れにくい 観光資源に対し、建物を“マリアージュ”させることで、観光資源としての持続性を高めることを目指した。過去と現代のマリアージュを行う中で、類似性を持つ四則演算の要素が建築に反映され、土地の持つ歴史、文化を含んだ個性的な概形が浮かび上がる。しまなみの複合施設では、実験的にフラクタル性を持った建築物に対し過去と現代の Mariage を行い、複合的に計算式が発生する建築に取り組んだ。

06.MARIAGE の展望

Mariage という考え方は、今後流行るであろう、そして、現在流行り始めている空き家改修やリノベといった動きの一つの指針となりうる。Mariage が今後の建築の変革の一つのかたちになることを期待する。

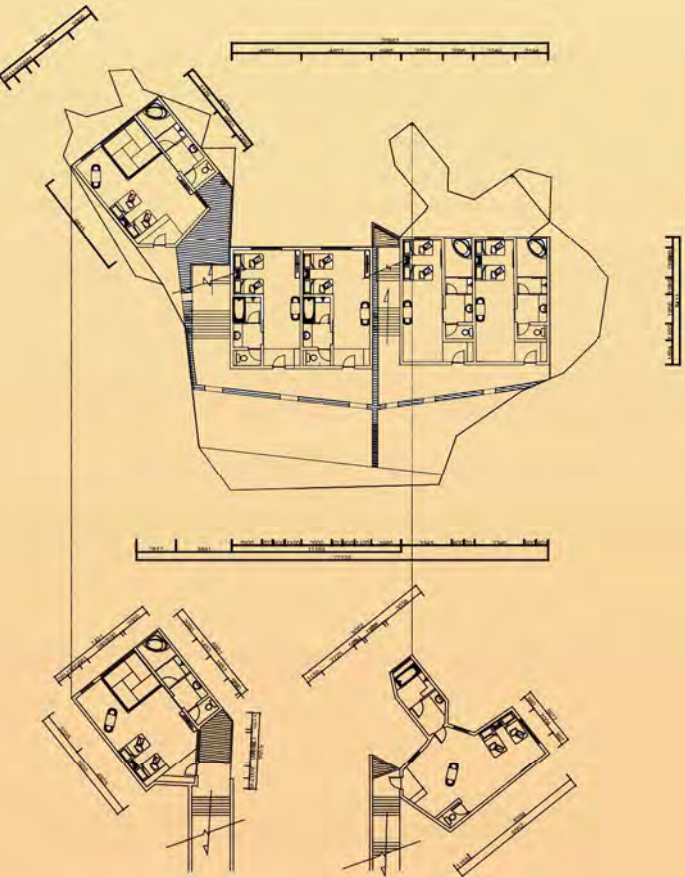
MARIAGE



07. 島々の概要

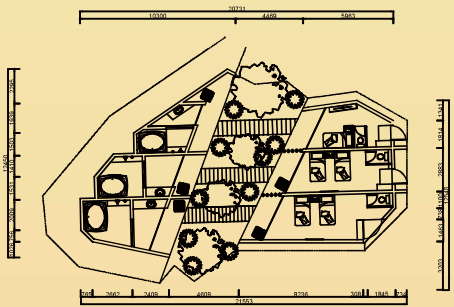
ホテル～大三島～

計7つの客室をもつ客室として設計。古くに水が貴重とされていたという背景により、現在でも水が大切にされている。この特徴よりこのホテルでは、水路や水盤を設け、水を身近に感じられる。



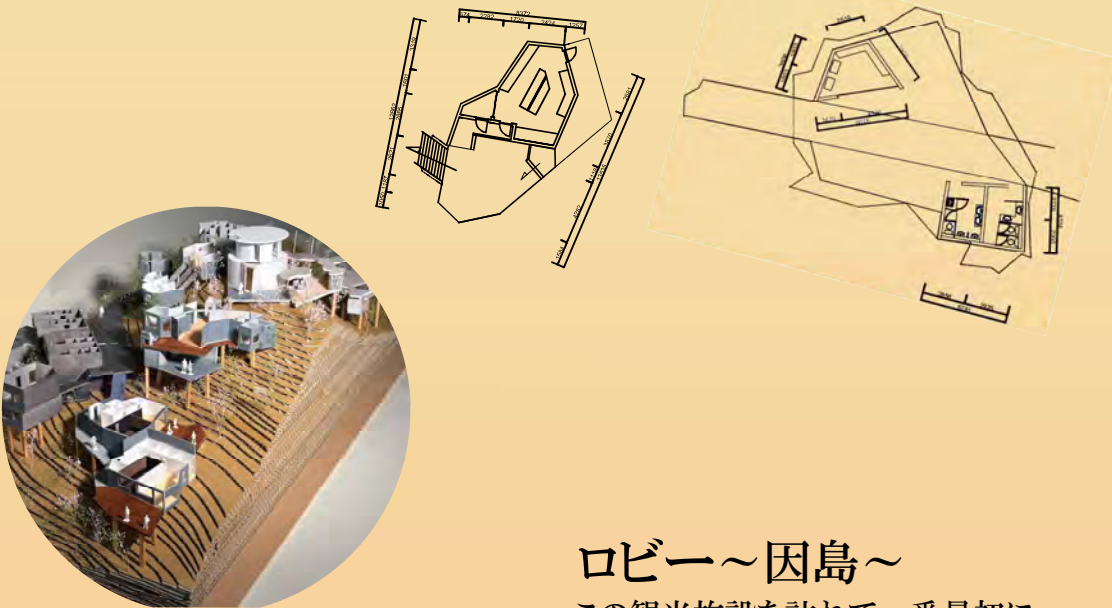
ホテル～生口島～

3つの個室を設け、1室の中でも外の空間を境に2つに分割する他に見ないホテルとなっている。その外部空間のレモンの木は、島の特徴であるレモン谷を表現する。また、壁を減らして外部空間の中に、レモンの木をスリットとして加えることによって、圧迫感を押さえた中でのプライバシー性を確保している。



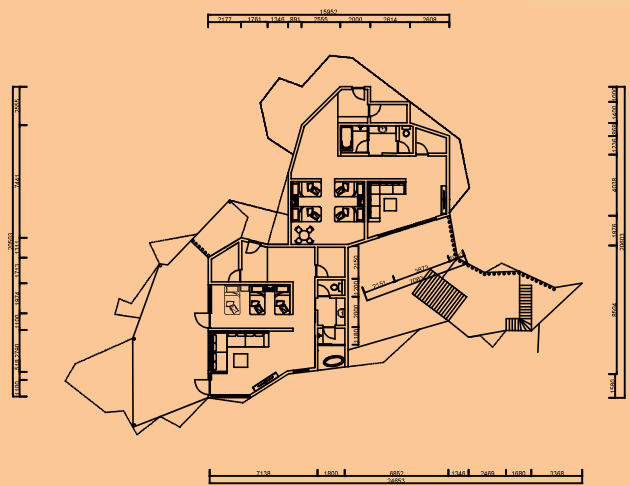
玄関口・通路・厨房～向島、佐木島～

厨房と客室へと下る動線を担う佐木島は、大きな踊り場のような形状となっており、厨房と階段が一体となった機能的な空間に仕上げた。向島にはトイレと休憩所を設け、来訪者が気軽に利用できるよう配慮した。また、鈍角の壁と施設へ向かって開く屋根のデザインにより、自然と人々の足が施設内部へと導かれる設計とした。



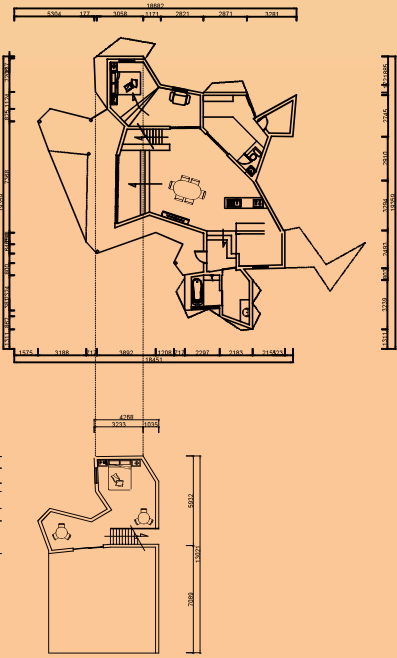
ホテル～大島～

南西方向に大きく開かれていることが特徴のホテル。その特徴をより活かすために大きい屋外空間を持っている。また、このホテルでは、壁による分割とともに、鉛直方向にも変化を生むことによって、互いの個室の独立性を高めている。



ホテル～伯方島～

唯一、一棟貸しのホテル。多くの島に囲まれているため、高低差を利用して高い位置からのプライバシーを確保するとともに、海に対して開かれた設計となっている。また、下の階において、ピロティを設け、屋根よりも外部に飛び出すテラスにすることで、開放感を演出する。



展望台・カフェ～岩城島、津波島、赤穂根島、佐島、生名島～

この施設全体を見渡せる建物。美しい景色を見るときに、フラクタルによる心の安らぎを感じられる。敷地内の唯一の建物である展望台は、この設計計画の軸となっている。



足湯～弓削島～

利用客の傾向から、利用客の疲労を癒すことのできる足湯を設けた。スリットによる視線の制御と開放的な景色でのびのびとした時を演出する。

ロビー～因島～

この観光施設を訪れて一番最初に通る建物。ホテルの利用客はここでチェックインを済ませて入室する。

